

平成17年度 第2回 教育研究審議会議事要録

日 時 平成17年4月12日(火) 13:30～15:00

場 所 北方キャンパス本館 E701 会議室

出席者 <委員> 矢田学長、国武副学長、棚次副学長、羽田野事務局長、乗口外国語学部長、近藤文学部長、斉藤経済学部長、小野法学部長、高橋国際環境工学部長、谷村大学院社会システム研究科長、赤塚学生部長、迎全学教務主事、山崎(勇)国際教育交流センター所長、山崎(克)産業社会研究所長

配布資料

- 1 中期目標・中期計画(原案)概要版
- 2 中期目標・中期計画(原案)
- 3 (仮称)経営企画室ワーキング会議の骨子(案)
- 4 公立大学法人北九州市立大学と財団法人国際東アジア研究センターとの教育研究に関する協定書(案)
- 5 公立大学法人北九州市立大学と財団法人国際東アジア研究センターとの連携大学院協定に関する覚書(案)
- 6 2005年度学部学年暦
- 7 他大学との学年暦比較表
- 8 教員研究費による旅費及び学会年会費の支出について
- 9 平成17年度第1回教育研究審議会議事要録(案)

(冒頭で第1回教育研究審議会議事録(案)について確認)

議事要旨

第1号 公立大学法人北九州市立大学中期計画(案)について
(意見なし)

【議長】原案のとおり承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第2号 (仮称)経営企画室ワーキング会議の骨子(案)について

○中期計画の項目に関わりがあってもメンバーに入っていない部局はどうするのか。

○ワーキング会議はどの項目をどこが検討するか整理するものである。ただし、必要があれば参加は可能である。

○振り分けや作業手順を扱い、実質的には割り振られたところが責任を持って進めるという理解でよいか。

○そのとおり。ただ、ワーキング会議の段階でも教育研究現場の考えが必要であり、教員の参加が不可欠である。

- メンバーは学科長限定でなく、学部の中から学部長が選ぶということではないか。
- 公平性の問題がある。学科長は教授会でサポートされて選ばれている。
- ワーキング会議のメンバーとして学科長は全学的な視点に立つ必要があるのか。
- そのとおり。全学的な議論をやってもらう。
- ワーキング会議のリーダーは多年にわたり教育研究活動を行う教員が適当ではないか。
- 教員は自由に提案を行い、経営企画担当局長が中心に作ったものを学長が提案する。
- 学部学科の再編の議論はどこで行うのか。
- 再編のあり方について相応するプロジェクトチームを作り、相当議論したうえで教育研究審議会や経営審議会で審議することになる。
- 法人化で学科長も忙しいが、具体的な文章作りという作業はないのか。
- それは義務ではない。
- このワーキング会議は中期計画の項目126番にあたるものか。
- 教職員一体となった運営という項目133番にもあたる。126番にも該当する。
- テーマによって代理出席は可能か。
- 可能であるが、情報伝達に支障が生じないよう、ケースバイケースで判断してほしい。
- 検討を始めても相当時間がかかるので、早急にしっかりした検討を行う体制に進む必要がある。

【議長】原案のとおり承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第3号 財団法人国際東アジア研究センターとの教育研究協力に関する協定書（案）及び覚書（案）について

（意見なし）

【議長】原案のとおり承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第4号 学年暦について

- 既にシラバスも印刷されており、混乱を避けるための学生への周知や、メリットがどれ程あるか等について検討が必要である。

【議長】本件については全学教務委員会から各学部意見聞き、異論がなければ次回の教育研究審議会で承認としてよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

報告

- （1）教員研究費による旅費及び学会年会費の支出について事務局から報告があった。
- （2）次回審議会について、平成17年4月26日（火）に開催したい旨、議長から説明があった。